

第8回『ボランティアフェスタ in 八幡西』は2月27日(日)に九州共立大学自由ヶ丘会館で開催されました。「学園&地域交流ネットワーク」は授産品バザーの紹介などを展示ブースに掲示という形で参加しました。

午後は福岡県立大学看護学部教授松浦賢長さんの基調講演と八幡西区の「あひる八幡西」「小嶺水辺の教室」「茶屋の原自治区会ふれあい朝市」の3団体から活動発表が行われました。

その中の「茶屋の原団地ふれあい朝市」について報告させていただきます。

8年前、八幡西区南部の茶屋の原団地の中心にあったスーパーが閉店。それからは車を持たない高齢者には買物に苦労する日々が続いていたそうです。そんな住民の要望を受けて自治区会の役員の方が立ち上がり、平成21年4月から閉店した元のスーパーの軒先を借り、「ふれあい朝市」をスタートさせました。

買物客も販売する人も地域の住民で、普段は静かな住宅街が毎週火曜日の午前中は明るく元気な声が飛び交い賑わいをみせています。

茶屋の原団地自治区会では毎回12人程度のボランティアが集まって、朝市の運営、準備、片づけ、宣伝等を行っています。「ふれあい朝市」は単なる買物だけでなく地域交流の場になり、安否確認の場にもなっています。

現在、新聞・テレビ等メディアでもよく報道されている「買物難民」の問題ですが、自治区会自らが立ち上がり運営している姿に会場からは大きな拍手がわきあがりました。

「折尾駅開業120周年」の2月28日を気持ちよく迎えてもらおうと、前日(27日)の16時から、折尾駅周辺で『ゴミひろい』を行いました。

雨模様でしたが、学生さんから高齢者まで、25人の参加がありました。

当初、傘をさして大きなゴミだけをひろってもらう予定でしたが、ゴミをひろいだすと、もっときれいにしようと気合が入り、傘をそっちのけで、細い路地や溝の中、柵の中のゴミや枯草の草抜きまでして、大きなゴミ袋に4袋位の量がありました。

みなさん、本当に、お疲れさまでした。

掃除の後、茶話会をしました。雨に濡れた衣服が乾く蒸気で、店内が白くなりました。

初めて顔を合わす方々もいましたので、お互いに自己紹介をして、とっても有意義な時間がもてました。

みなさんの感想は、「ゴミひろいをして街がきれいになったけれど、自分の心もきれいになった」、「始めるのは勇気がいったけれど、やりだしたら止まらない」、「もっと、自分の街をきれいにしたいと思った」など素敵な感想をいただき、「HAPPYゴミひろい」をして良かったと思いました。

今後の計画ですが、毎週木曜日の18時から30分程度折尾駅周辺を掃除します。掃除用具やエプロンは「白石書店」の入口付近に置いてありますので、お気軽にゴミひろいにご参加ください!!掃除の時間帯に皆さんがどこを掃除しているかの目印は、「黄色のエプロン」です。見当たらない時は、090-2710-6810(マカ)にご連絡ください。

HAPPYを振りまきながら みんな一緒に楽しくゴミひろいをしましょう!!

「歴史遺産『北九州レトロ』をつくる会」